

プロも使う Yocto 開発環境で初体験! [ご購入はこちら](#)

# ラズパイ時代のレベルアップ! MyオリジナルLinuxの作り方

## 第24回 意外と知らないYoctoでの日本語入力環境構築&設定メカニズム

三ツ木 祐介



図1 Yoctoで作成したLinuxで日本語入力をできるようにする

今回は意外と知られていないYoctoでの日本語入力環境の作成方法について解説します(図1)。

Yoctoで作成したLinuxでは、日本語を入力できる環境が実は一般的には使用されていません。もともと、メンテナに英語圏の人たちが多く、組み込み向け環境であるため、Ubuntuなどのようにデスクトップでの利用があまり一般的ではないためだと思われます。

Yoctoでは、core-image-satoなどでデスクトップ環境を構築できます。しかし、デフォルトの状態では日本語を入力することができません。

一応、パッケージとしてはちょっと古めですがuimとanthyが存在しているので、これを使用して、core-image-satoのイメージをベースに日本語入力環境を作成していきます。

### 日本語入力に対応できるイメージの作成

#### ● ステップ1…環境変数の設定

連載第21回(2018年9月号)で作成した環境をベースにイメージを作成します。

次のコマンドを実行して、環境変数の読み込みとビルド・ディレクトリを作成します。

```
$ cd rpi-rocko
$ source layers/poky/oe-init-build-env build_jp
```

今回はビルド・ディレクトリをbuild\_jpとして作成しています。

#### ● ステップ2…レイヤの追加

bitbake-layersコマンドでレイヤを追加します。

```
$ bitbake-layers add-layer ../
```

#### リスト1 日本語入力のためのlocal.confの修正

```
MACHINE = "raspberrypi3"
DL_DIR ?= "${TOPDIR}/../downloads"

IMAGE_INSTALL_append = " uim-xim uim-utils uim-
                        common uim-gtk2.0 uim-gtk3 uim-anthy"
IMAGE_INSTALL_append = " ttf-vlgothic ttf-sazanami-
                        gothic ttf-sazanami-mincho"
IMAGE_INSTALL_append = " setxkbmap"

IMAGE_LINGUAS ?= "ja-jp ja-jp.euc-jp"
GLIBC_GENERATE_LOCALES = "ja_JP.UTF-8 ja_JP.EUC-JP"
```

```
layers/meta-openembedded/meta-oe
$ bitbake-layers add-layer ../layers/
meta-openembedded/meta-python
$ bitbake-layers add-layer ../layers/
meta-raspberrypi/
```

#### ● ステップ3…local.confの修正

local.confに日本語入力に必要なパッケージと、日本語フォント、キーボード・レイアウトの設定ツールを追加します(リスト1)。そしてロケールの設定に必要な変数を設定します。

#### ● ステップ4…ビルドと書き込み

次のコマンドを実行して、イメージのビルドとSDカードへの書き込みを行います。

```
$ bitbake core-image-sato
$ sudo dd if=tmp/deploy/images/
raspberrypi3/rpi-basic-image-
raspberrypi3.rpi-sdimg of=/dev/sdX
bs=100M
```

今回はデスクトップ環境を作成するのでcore-image-satoのイメージを作成します。また、/dev/sdXは、環境によりsdbやsdcなどになります。

### 日本語入力環境の設定

#### ● ステップ1…設定ファイルの変更

このままでは日本語の表示と入力が有効化されていません。リスト2のようなスクリプトを、Xサーバの